

年頭のごあいさつ



公益社団法人
鹿児島県看護協会 会長

田 畑 千穂子

新しい年を迎え、皆様に謹んでお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大の中、第一線で従事しております医療職の皆様に心から感謝申し上げます。保健師や感染管理認定看護師等をはじめとして看護職の活躍にも期待が寄せられ、多くの看護職が使命感を持って、地域を守り抜く覚悟で昼夜問わず、ひた向きに看護に従事しております。看護職にはその専門性を活かし市民の生命や健康に貢献する役割があります。本会も関係団体とともに、緊急的な医療人材確保等の連携を強化し、長期化する辛抱の時を乗り越えていきたいと考えております。

日本看護協会は、看護職が国民の「新しい生活様式」を支え、有事を見据えた安定的な医療提供体制の確保、感染拡大防止の鍵は看護職の専門性、看護の力で健康な社会をと4つの項目を提言しました。本会は日本看護協会の「地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業」を受託し、県や県医師会、感染対策班とも情報共有を図りつつ、宿泊療養施設（鹿児島市・名瀬市の2カ所）やクラスターが発生した施設への看護職の派遣調整等に取組んでおります。また、県委託事業の「看護師等養成施設における実習補完事業」では、県内の養成校を訪問しながら各

養成校の実情に合わせ、潜在看護職を実習支援者として派遣をすすめております。そして、ナースセンターに登録されている2,000人の潜在看護職の再就業がこのコロナ禍の人材確保の鍵であり、その背中を押していく事業をすすめながら本会の役割を果たして参ります。

さて、世界では持続可能な開発目標（SDGs）への活動が普及しつつあります。鹿児島市でも、2020年11月21日に鹿児島青年会議所の主催でユニセフ等27団体による持続可能な開発目標（SDGs）普及事業が開催されました。本会のブースでは、新型コロナウイルス感染対策への看護職の活動紹介、子ども達へ「手洗いできるかな」のコーナー、看護職への応援メッセージを林檎の木にしました。親子連れの小さな手の動きに多くの笑顔が集まっていました。

最後に、あらゆる場で求められている看護職です。住み慣れた地域で最期まで暮らせるような社会の実現に向けて、市民の皆様のニーズに応えられる職能団体としてさらに貢献したいと考えております。今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。